

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 工芸 I

教科：芸術

科目：工芸 I

単位数：

単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：松村世津子

使用教科書：工芸 I（日本文教出版）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】工芸の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、制作活動に取り組む。

【思考力、判断力、表現力等】素材・表現方法についての理解を深め、応用して制作に生かす。

【学びに向かう力、人間性等】自ら試行・工夫し、作品の完成度を高める。

科目 工芸 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①工芸の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、制作活動に取り組む。 ②材料の特性を理解し、加工技法に習熟する。	理論的な理解に基づき、慎重に制作を進める。	作品の完成度を追究し、自ら試行・工夫し制作に取り組む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現		鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
			身	社						
1 学期	家具調時計 文字盤を製作する。	<ul style="list-style-type: none"> 時計の機能を理解し、ICTを活用して幅広く情報収集をして、用途に即したデザインをする。 マスキングとアクリル塗料による加飾を理解し、美しく仕上げる。 自作図版資料を用いた端末での説明を取り入れる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 各技法の理解度、習熟度、完成度。 創意工夫をして完成度を高めようとする意欲があるか。 根気よく製作に取り組む姿勢があるか。 	○	○	○	24
	2 学期	額を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 用具の使用法を習得し、精度の高い加工を目指す。 	○				○	○	○
塗装をする。		<ul style="list-style-type: none"> ウレタン塗装に習熟し、美しい塗装面に仕上げる。 コンパウンドによる鏡面仕上げをする。 								
3 学期	陶芸 絵付皿を製作する。 彫刻皿を製作する。	<ul style="list-style-type: none"> 線刻と絵付けによる加飾を理解し、効果的に製作に生かす。 製作過程を見学し合い、話し合っって技術の向上を目指す。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 各技法の理解度、習熟度、完成度。 創意工夫をして完成度を高めようとする意欲があるか。 根気よく製作に取り組む姿勢があるか。 	○	○	○	18
		<ul style="list-style-type: none"> 完成した作品を観察、鑑賞し、創作の喜びを味わい、自信を持つ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 作品の良いところを認め合い、自信を持つことができたか。 				合計 70

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教科：芸術

科目：音楽Ⅰ

単位数：

単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：清水真優）（2組：清水真優）（3組：清水真優）（4組：清水真優）（5組：清水真優）（6組：清水真優）

使用教科書：（MOUSA1

）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	歌唱 「校歌」の歌詞を覚えて歌う。	○基礎的な呼吸法・発声法を理解する。 ○歌唱の意味を考え、表現の工夫を考え、実践する。	○				・授業態度 ・一人一台端末による振り返り ・振り返りシート ・実技試験	○	○	○	6
	鑑賞 「組曲《動物の謝肉祭》」（カミーユ・サンサーンス作曲	○楽曲の構成に気づかせ、音楽の形式を学ぶ。 ○作曲者について学ぶ。				○	・授業態度 ・ワークシート ・振り返りシート	○	○	○	3
	楽典 「音符の名前と長さ」 「拍子と音の割合」 「音名と階名」	○音符の長さを理解し、楽譜を見て正しいリズムを打つことができる。 ○音名を理解し、楽譜に書かれている音を読むことができる。 ○拍子記号について理解し、3拍子や4拍子の違いを知覚・感受することができる。				○	・ワークシート ・授業態度 ・筆記試験	○	○	○	6
	器楽 「きらさら星をアンサンブルしよう」	○クラシックギターの基本的な演奏姿勢・演奏方法について理解する。 ○ギターアンサンブルをして、相手の音を聴きながら演奏する。	○				・授業態度 ・一人一台端末による振り返り ・振り返りシート ・実技試験	○	○	○	5
2 学 期	歌唱 「少年時代」 合唱曲	○基礎的な呼吸法・発声法を理解する。 ○合唱曲に取り組み、パートごとに音取りをする。 ○合唱曲をパートごとに練習し、それぞれのパートのリズム・音程を理解する。 ○指揮や伴奏と合わせて歌うことができる。 ○曲想を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。	○				・授業態度 ・一人一台端末による振り返り ・振り返りシート ・実技試験	○	○	○	12
	器楽 ギター：「第三の男のテーマ」 ピアノ独奏	○第三の男のテーマの主旋律を演奏する。 ○ピアノは基礎的な奏法を身につける。 ○両手弾きをする。				○	・授業態度 ・一人一台端末による振り返り ・振り返りシート ・実技試験	○	○	○	12
	楽典 1学期の復習 音程	○音符の長さを理解し、楽譜を見て正しいリズムを打つことができる。 ○音名を理解し、楽譜に書かれている音を読むことができる。 ○拍子記号について理解し、3拍子や4拍子の違いを知覚・感受することができる。 ○音程の意味を理解する。				○	・授業態度 ・一人一台端末による振り返り ・振り返りシート ・筆記試験	○	○	○	6
	鑑賞 「ボレロ」（ラヴェル）	○楽曲の構成に気づかせ、音楽の形式を学ぶ。 ○作曲者について学ぶ。				○	・授業態度 ・ワークシート ・振り返りシート	○	○	○	4

3 学 期	器楽 ピアノ連弾	○ピアノは基礎的な奏法を身につける。 ○両手弾きをする。			○	・授業態度 ・一人一台端末による振り返り ・振り返りシート ・実技試験		○	○	○	8
	鑑賞 ショパンの作品の鑑賞	○楽曲の構成に気づかせ、音楽の形式を学ぶ。 ○作曲者について学ぶ。			○	・授業態度 ・ワークシート ・振り返りシート		○	○	○	8
	合計										70

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教科：芸術

科目：書道 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 3 組～ 6 組

教科担当者：（3組：大橋） （4組：大橋） （5組：大橋） （6組：大橋） （組： ） （組： ）

使用教科書：（書 I（光村図書出版））

教科 芸術

の目標：

【知識・技能】日本と中国の文字と書の伝統と文化・書体の変遷を理解する。

【思考力・判断力・表現力】古典の価値について考え、書のよさを味わう。

【主体的に学習に取り組む態度】書の変遷や背景にある歴史や文化に関心を持ち、表現においても意欲的に取り組む。

科目 書道 I

の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
①日本と中国の文字と書の伝統と文化・書体の変遷を理解する。 ②各書体特有の字形や線質について理解する。	①古典の価値について考え、書のよさを味わう。 ②味わった美しさ感性を豊かにし、作品の表現の違いを判断する。 ③鑑賞の学習に取り組み、表現できるように努力する。	書の変遷や背景にある歴史や文化に関心を持ち、表現においても意欲的に取り組む。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		漢 仮	漢	仮						
1 学 期	書について ・楷書 「孔子廟堂碑」	・書写から書道へ。 ・用具・用材・書の表現。 ・漢字の書体の変遷。 ・書風・特徴を捉える。 ・さまざまな古筆を見て、楷書にも用筆、字形の違いがあることを知る。 ・拓本について理解する。 ・虞世南について知る。 ・丸みを帯びた伸びやかな私になるように書く。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				2
	「九成宮醴泉銘」	・欧陽詢について知る。 ・「楷書の極則」とたたえられる背勢を理解する。 ・用筆、字形を理解する。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				4
	「雁塔聖教序」	・褚遂良について知る。 ・抑揚を利かせた用筆を理解する。 ・初唐の三大家を知る。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				2
	「顔氏家廟碑」	・顔真卿について知る。 ・重厚な運筆や向勢の字形を理解する。 ・「蚕頭燕尾」と呼ばれる用筆を理解する。 ・初唐の四大家を知る。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				2
	「牛橛造像記」	・北魏の楷書について理解する。 ・力強い運筆や方形を知る。 ・「鄭義下碑」と比較する。 ・重厚な運筆や向勢の字形を理解する。 ・「蚕頭燕尾」と呼ばれる用筆を理解する。 ・初唐の四大家を知る。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				2
	「鄭義下碑」	・ゆったりとした構えの字形を理解する。 ・点画に丸みを持たせた円勢を理解する。 ・筆力は強くあることを理解する。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				4
	「隅寺心経」	・写経について知る。 ・空海について知る。 ・1行17字を収め写経体とし、整然とした美しさを追求する。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				4
・行書 「蘭亭序」	・行書の特徴を理解する。 ・筆者について知る。 ・全体を鑑賞し、思いと筆使いを理解する。 ・感情が書に表れていることを知る。 ・大筆、小筆でも書き、どちらもよく特色が出るように表現する。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				6	
「温泉銘」	・筆者太宗について知る。 ・文字の大小、線の太細、書風を理解する。				提出作品の評価 授業態度 出席時間数				2	

「寸松庵色紙」	理解する。 ・単体と連綿の組み合わせによるリズムを理解する。	○		○	授業態度 出席時間数		○	2
「升色紙」	・ゆったりとした連綿、行と行を絡めた構成が書けるようになる。	○		○	提出作品の評価 授業態度 出席時間数		○	2
・創作	・仮名の創作をする。 ・歌を決め、文字を集字し構成する。 ・構成を生かし、下書きし練習し、仕上げる。	○		○	提出作品の評価 授業態度 出席時間数		○	6
合計								70

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教科： 芸術 科目： 美術 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 2 組～ 6 組

教科担当者： 関谷美保子

使用教科書： （ 高校生の美術 1 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】美術の基礎的な知識・技能を身に付け、作品作りに取り組む。

【思考力、判断力、表現力等】画材にふさわしい表現で作品を作る。自ら思考・判断・表現する。

【学びに向かう力、人間性等】基礎的な課題に興味を持ち、応用課題においては主体的に学習に取り組む。

科目 美術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①美術の基礎的な知識・技能を身に付け、作品作りに取り組む。②画材や道具の特性を理解し、作品制作に生かす。	①画材にふさわしい表現で作品を作る。②自ら思考・判断・表現する。	①基礎的な課題に興味を持ち、応用課題においては主体的に学習に取り組む。②工夫を凝らし、自分の表現を追求する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
1 学 期	鉛筆の使い方 幾何形体のデッサン	デッサン用鉛筆の種類を理解し、様々な使い方を身に着ける。幾何形体を使用し、形の取り方・陰影のつけ方を学ぶ。	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	10	
	手のデッサン	自分の手をよく観察して大きくデッサンする。光の方向を意識して明暗を表現する。	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	14	
2 学 期	不透明水彩	ポスターカラーの使い方を学ぶ平塗り マスキング 12色 相環混色	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	16	
	模写	不透明水彩・透明水彩の表現を使って、各自で選んだ題材を模写をする	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	14	
3 学 期	模写	不透明水彩・透明水彩の表現を使って、各自で選んだ題材を模写をする	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	16	
							合計	70